

社会調査士資格取得G科目

尾崎正峰ゼミ ● スポーツ社会学

本ゼミでは、スポーツ社会学の基本文献の輪読からスタートし、併せて共同作業として「スポーツと地域振興」に関する実態調査を行っています。これまで「札幌市と日本ハム、コンサドーレ札幌」「さいたま市と浦和レッズ、大宮アルディージャ」「群馬県・草津町とザスパ草津」などの調査を行ってきました。調査に関連する文献、資料、データの収集と分析を進めながら、夏休み頃から10月上旬までの間に順次調査を実施しています。

調査のテーマや対象を決めるにあたっては、「当たり前」として見過ごしがちな日常の事柄のなから問題を探り出すことを基本にしています。ゼミで統一して調査をする

年もあります。直近の2012年は各自が個別に取り組んだ年でした。大学のバスケットボール団体への取材を続けてき



た学生は、「大学バスケットボールの認知度アップや活性化には何が必要か」を考えるとというテーマを選びました。また、マーケティングに興味のある学生は、歴史的観点からスポーツ用品産業をとらえるというテーマに取り組んでいます。いずれの学生も集めた素材をレポートにまとめるために奮闘中です。

その際、「論理立ててまとめる」ということを重視しています。調査に協力してくださった方はもちろん、第三者が読んでいくためにできるレポートにしておくためには、論理の一貫性が不可欠だからです。まとめの過程では、通常のゼミでの議論に加え、他のスポーツ関係のゼミとの合同発表会や他大学との合同ゼミなど、学生が進行中の調査の成果を発表し、意見交換をする場を設定しています。本ゼミの学生には、このような経験を通して、そして、決まった答えのない難しさに向き合うなかで、論理的思考力を磨いてほしいと考えています。(談)

社会調査士資格取得G科目

児玉谷史朗ゼミ ● アフリカ地域研究・開発研究

本ゼミには二つの軸があります。まず、サハラ以南のアフリカを対象にした、開発その他に関する各種の文献輪読、及びグループごとの調査・発表。もう一つは、日本



本の国際開発協力を担う人材の育成に関する調査です。社会学部のゼミとしてフィールドワークは不可欠ですが、アフリカでの調査は現実的には難しい。そこで後者の軸で、JICA、UNICEF、NGOなどで担い手の育成に携わる方々や協力の最前線で活躍されている方々にインタビューを実施。結果を報告書にまとめることで社会調査を体験してもらっています。

参加する学生は「国際協力」「発展途上国」「貧困問題」などにとても関心が高く、ゼミを選ぶ前段階ですでに何らかの活動に携わっていたり、1年間の海外留学を経験していたりした学生たちが集まっています。当然、国際開発協力の現場で働く方々への興味・



関心はとても高いです。そこでインタビューも人材像のヒアリングにとどまらず、取材対象の方自身のライフストーリーが引き出せるように頑張ってもらっています。

2012年は女性の参加率が高かったこともあり、ある女性の代表者への取材では、働き方や家庭との両立まで掘り下げてヒアリングし、報告書にまとめてくれました。考えてみれば、ジェンダーの問題に先進国・途上国の違いはありません。リベリア(西アフリカ)で初の女性大統領が誕生する一方、日本の企業では女性管理職はまだまだ少ない。一方的に教えるのではなく、互いに学び合う姿勢が大切です。このように開発や貧困などの問題にとどまらず、社会調査から想定外の発見が生まれることはもちろん大事なことですし、学生たちには、そのような調査から発見のプロセスを楽しんでもらいたいと考えています。(談)